

【全体概要】産地の高齢化や労力不足が進むなか、ごぼう産地が縮小傾向であり、特に厳寒期はトンネル被覆や開閉作業が必要であることから面積拡大がなかなか進んでいない。一方、本県の若掘りごぼうは、出荷時に葉柄を残して「新ごぼう」の名称で区別販売される商品であり、需要は高い状況である。そこで、省力で良食味である本県育成の新品種「サラサラごんぼ」を導入し、安定生産技術確立と消費拡大により、県内のごぼう産地拡大を進める。

新品種・新技術等の概要

○新品種「サラサラごんぼ」

福岡県農林試で育成された冬～春どり作型でもトンネル被覆なしで葉が枯れないという特徴をもつ品種。

トンネル被覆した「渡辺早生」と比較して、低温期での根の肥大が良好で、根重良く、根色は白く、収量也多収である。

○長期安定出荷のため、トンネル被覆なしの2～4月だし作型を確立

県内4か所で実証ほを設置し、既存品種「渡辺早生」「柳川理想」と厳寒期の生育、収穫物の重量や品質について比較調査。



左:「サラサラごんぼ」
右:「渡辺早生」

主な取組内容

【検討会】(6月、3月 計2回)

・実証ほの設計、および成績検討会。

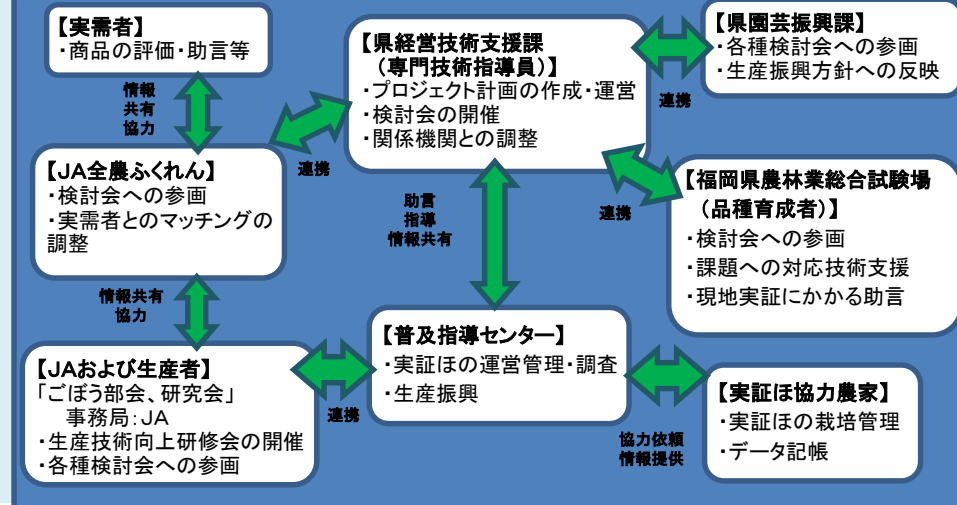
【実証ほ設置 4か所】(4普及センター、4ほ場)

【現地検討会】(11月、12月、2月 3月 計4回)

・実証ほの生育状況確認、現地検討会を開催。

・JA全農ふくれんとの意見交換。(食味調査結果報告)

実施体制図



実績と今後の展開

①栽培面積の増加

70a(H30)→ 200a(R1)

②実証結果の概要

実証ほの成績から、吸水種子を約1か月低温処理することで生育促進が図られ、トンネル被覆なしで2～4月の収穫が可能であることが実証された。

③産地づくりへの活用・展開

完成した栽培マニュアルを活用し、既存産地への新品種の作付け拡大と新たな産地の育成を図る。